

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（7月定例会）
開催日時	令和8年7月24日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	田無第二庁舎5階会議室
出席者	委員：川原議長、松本副議長、斉藤委員、伊尻委員、小野委員、岩穴口委員、 山本委員、大宮委員、堀田委員、河野委員、田口委員 事務局：鬼頭地域学習推進係長、石島主事
議題	（1）今後の活動について
配付資料	資料1 西東京市社会教育委員設置条例 資料2 西東京市社会教育委員会会議規則
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録

会議内容

議題（1）議長・副議長の選出について

●事務局：社会教育委員設置条例第3条では、「委員の任期は2年とする。」、社会教育委員会会議規則第2条では、「議長及び副議長の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。」となっている。これにより、委員の任期は2年、議長・副議長の任期は1年である。また、社会教育委員会会議規則第2条では、「会議に西東京市社会教育委員の互選による議長1名及び副議長1名を置く」となっている。ついては、議長に立候補される方、または他の委員からのご推薦により、議長・副議長を決定いただきたい。

●事務局：議長に立候補される方、または他の委員のご推薦はあるか。

○委員：引き続き川原委員に務めていただくのはいかがでしょうか。

○事務局：川原委員の推薦があったがよろしいか。

一同異議なし

●事務局：では、新議長は川原委員とする。これより先の議事は新議長にお願いする。

議長交代

●議長：これより、議事進行を引継ぐ。次に副議長の選出について、立候補される方、または他の委員のご推薦はあるか。

○議長：特にないようであれば、引き続き松本委員に務めていただくのはいかがでしょうか。

一同異議なし

●議長：それでは、副議長は松本委員とする。

議題（２）今後の活動について

<現役世代の定義について>

●事務局より、今後の現役世代の生涯学習の課題議論にあたり、議論の対象である現役世代の定義について、残る協議可能な定例会の回数も考慮し、対象とする年代や立場については限定することを提案。また、具体的な定義については、公民館の事業計画における定義を参考とし、「20代から50代の就労層」とすることを提案。

●議 長：事務局の提案について、何か意見はあるか。

○委 員：成人年齢は18歳に引き下げられているので、年代は18歳からとした方が、網羅性がより高いと思う。

○委 員：就労層の定義について、総務省の定義では、生産年齢人口の定義は15歳から64歳であり、再雇用も含めると70歳以上も考慮した方が良いと思う。

○委 員：専業主婦や引きこもりの方は対象に含めず、仕事をしている人に限定するということかを確認したい。

●議 長：残る協議可能な会議の回数、及び、前回の定例会で仕事と学びの両立についての意見が多かったことも考慮し、「20代から50代の就労層」をメインターゲットとし、その他の年代や非就労層については関連した世代として取り扱うこととしたいがよろしいか。

一同、異議なし

<メイントピックについて>

●事務局より、現役世代の生涯学習の課題について、前回の定例会で委員各位から挙げられた課題について、大別すると「現役世代の学びのニーズ」「学びの環境の充実」「情報発信」「学ぶ姿勢・きっかけ」「地域や人との関わり方」「活動の持続可能性」の6つに分類できると説明。

また、これらを集約し、かつ市の教育計画でも生涯学習の推進体制の充実を掲げていることから、「現役世代の学びのニーズ」と「学びの環境の充実」を今後の課題議論のメイントピックとすることを提案。

●議 長：事務局の説明について、何か意見はあるか。

○委 員：他に繋がる課題を集約することに異論はない。学びのニーズについては具体的に誰のニーズについて話せば良いのか、前提の認識合わせをする必要があると思う。事務局としては誰のどのようなニーズを想定しているのか。

○事務局：市民がどのような講座や、どのような学習環境を求めているのか、というニーズを想定している。

○議 長：議論の土台として、市民のニーズをアンケートなどで把握することが重要であると思う。

○委 員：就労層のニーズとしては、仕事に関するものに重点がおかれると予想される。一方で、社会教育の観点では、地域との繋がりや費用がかからない学びについても大事にする必要があると思う。

○委 員：学びのニーズも、結局は学びの環境の充実に繋がるのではないかと思う。

- 委員：就労層のニーズとなると、キャリアプランのための学習に行きつくと思われる。ニーズはある程度顕在化しているので、それよりも、本議論では潜在的なニーズを探る必要がある。
- 委員：社会教育の観点から、「学び」という言葉を「地域での学び」に変えると良いと思う。
- 委員：公民館で学び、そして仲間をつくってきた経験から、若い世代にも公民館のような地域における学びがあるということを伝えていきたいと思う。
- 委員：社会教育の観点からは、地域での学びや活動への参加を広げて行きたいが、現役世代の就労層にとっては、そういった学びは優先度が低いと思う。その様な層にどうやって地域の学びを届けていくかがゴールの一つになると思うが、本活動のゴールをどこに置くかの議論が必要だと考える。
- 委員：現役世代のニーズを調査した結果、我々が想定するニーズと実際のニーズのギャップが見えて来ると思うので、そういった気づきも重要であると思う。調査については、公式LINEでアンケートが実施できるのではないかな。
- 議長：事務局には市で使用が可能なアンケートについて確認をして欲しい。
- 委員：20代の頃に、資格取得のため学校に通っていたことがあるが、当時の校長の「仕事が終わった後の人生が何十年あるかわかっているか。地域に知り合いはいるか。仕事が終わってからは地域に貢献するための学びとなる。」という言葉が印象に残っている。20代の頃はその言葉の意味が実感できなかったが、年齢を重ねてから実感するようになった。若い世代にもそういった学びの大切さを伝えたい。
- 委員：立川市が令和5年度に「生涯学習に関する市民アンケート」を実施している。事務局には立川市がこのアンケートをどのように活かしているか確認して欲しい。
- 委員：若い世代への学びに関して、学校における職場体験は実施されているのか。
- 委員：私が教員だった時には、中学2年生、3年生で民間企業や公的機関にて職場実習を実施していた。実習後に、自分が何を学びたいのか、自身の進路について考えてもらう。
- 議長：「学びの環境の充実」については何かトピックはあるか。
- 委員：仕事と学びの両立ができている人の話は聞いてみたい。
- 委員：周りの話を聞くと、仕事に加えて家庭もあり、地域と関わる余裕がないとのことだった。
- 委員：先ほど紹介された立川市のアンケートを見ると、インターネットを使った学びが多い。若い世代も学んでいないのではなく、自分の都合で調整可能なオンラインによる学習が多い印象を受ける。学習環境は世代によってニーズが異なってくると考える。ただし、オンラインによる学習は、地域とのつながりではなく個の学びになると思う。
- 委員：学びのきっかけとしてPTA活動も多いと思われる。

<研修について>

- 委員：公民館においても現役世代に向けた講座を実施しているが、どれくらいの人数が集まったのかや、公民館からはどのような仕掛けを実施してきたのかという話を聞いてみたい。
- 委員：学びの環境について、西東京市の現状を可視化することが重要であると考え。
- 議長：公民館の職員を講師として招き、研修を実施しても良いと考える。
- 委員：公民館の情報発信についても職員に聞いてみたい。
- 委員：外部研修の候補として立川市を提案する。
- 議長：公民館職員による研修、及びその他外部講師による研修なども実施する方向で考えたいと思うがよろしいか。

一同異議なし

- 議長：本日の議論を踏まえ、次回の会議の議論内容を整理すると以下の通りになるかと思うが、よろしいか。
1. アンケートの内容の検討
 2. 公民館職員による研修内容
 3. 外部講師を招いた研修内容、講師の検討

一同異議なし

次回会議

日時 令和8年8月21日（金）午後2時

場所 田無庁舎2階 202・203会議室